

シニア・ストラテジスト  
山本 雅文

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

## レンジ底固めへ

### <ポイント>

- ◆昨日は、欧州時間入りにかけてドル/円の下落基調が続き、一時 118.07 円の安値をつけた。もっとも、その後発表された米経済指標のうち、コア CPI が市場予想を上回り、新規失業保険申請件数が市場予想を下回る良好な結果となったことからドルが買い戻され、引けにかけては 119 円丁度手前まで回復した。
- ◆他方、ユーロ/ドルも欧州時間入りにかけてノボトニー・オーストリア中銀総裁が追加緩和の必要性に言及したことなどから下落に転じたほか、一部米経済指標が予想比良好だったことを受けたドル高もあって続落、1.15ドル丁度手前から 1.1363ドルの安値へ大幅下落となった。
- ◆本日は、黒田日銀総裁発言(15:35)、フォーブス BoE 金融政策委員発言(19:30)、クーレ ECB 理事発言(20:30)、米 9 月鉱工業生産・設備稼働率(22:15)、米 8 月 JOLT 求人件数および米 10 月ミシガン大消費者信頼感速報(いずれも 23:00)などが予定されている。
- ◆中では米経済指標が注目、鉱工業生産など製造業関連計数は下振れリスクがある一方、昨日発表の地区連銀製造業サーベイの悪化にはあまり市場は反応しなかったことから、むしろ求人件数や消費者信頼感がより重要で、市場予想以上の改善を示せば、再び年内利上げ開始期待が高まり、ドル/円のレンジ下限底固めとなりそうだ。

### 昨日までの世界:レンジ下限を試したが、反発

ドル/円は、欧州時間入りにかけて下落基調が続き、一時 118.07 円の安値をつけた。もっとも、その後発表された米経済指標のうち、コア CPI が前年比+1.9%と前月および市場予想を上回り、新規失業保険申請件数が 25.5 万件と市場予想を下回り 1973 年以来の低水準となるなど良好な結果となったことからドルが買い戻され、引けにかけては米株高も手伝って 119 円丁度手前まで回復した。この間、NY 連銀製造業景況指数は-11.36、フィラデルフィア連銀製造業サーベイも-4.5 といずれも前月からは小幅改善したものの市場予想を下回る結果となったが、市場はどちらかというと好材料の方に反応したかたちとなった。

ユーロ/ドルは、アジア時間は前日の上昇地合いが続き一時 1.1495ドルと 1.15ドル丁度手前まで小幅続伸していた。もっとも、欧州時間入りにかけてノボトニー・オーストリア中銀総裁が「コアインフレ率も明らかに ECB が目指す水準を下回っている」「一連の追加手段が必要なのは明白」などとハト派的な発言をしたことなどから下落に転じ、1.14 ドル台前半へ下落した。更に一部米経済指標が予想比良好だったことを受けたドル高もあって続落、1.1363ドルの安値をつけた。

ユーロ/円は、欧州時間入りにかけてドル/円とユーロ/ドルがほぼ同時に大幅下落したことから、136

円台半ばから 135 円台前半へ急落、NY 時間にかけても軟調が続き 134.80 円の安値をつけた。但し引けにかけては 135 円台を回復した。

豪ドル/米ドルは、豪雇用統計が発表され雇用者数が-5100 人と予想外の減少となったが(失業率は 6.2%で市場予想通り横ばい)、前日からの反発基調が続き 0.73ドル台を概ね維持した。但し、NY 時間には一部米経済指標の予想比上振れを受けて 0.72ドル台半ばへ急落する場面もあったが、その後の米株高により下支えされたとみられ、0.73 ドル台へ急反発、結局下落は一時的となり堅調地合いが維持された。

豪ドル/円は、豪ドル/米ドルの強含みを受けて 87 円台前半で推移していたが、東京時間午後に入り軟調となり、米ドル/円の下落とともに 86 円台前半へ軟化した。但し引けにかけては豪ドル/米ドルの反発と共に 87 円台を回復するなど、結果として 86 円台後半を中心としたもみ合い推移だった。

### きょうの高慢な偏見:レンジ底固めへ

[今週の見通しはこちら\(10月9日付FX戦略ウィークリー\)](#)

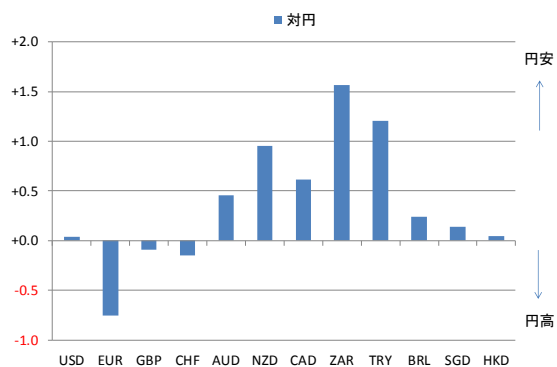
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は昨日の下落でも 8 月末以降の 118-122 円のレンジ下限がかろうじて維持されたかたちとなったが、本日は米経済指標が注目、鉱工業生産など製造業関連計数は下振れリスクがある一方、昨日発表の地区連銀製造業サーベイの悪化にはあまり市場は反応しなかったことから、むしろ求人件数や消費者信頼感がより重要となりそうで、市場予想(558.0 万件、89.0)を上回れば、再び年内利上げ開始期待が高まり、ドル/円のレンジ下限底固めとなりそうだ。

ユーロ/ドルは、米経済指標を受けた米ドル動向の影響を受けやすいが、ユーロが堅調になってきている中で、昨日のノボトニー総裁発言に続き、他の ECB 高官から追加緩和の必要性を示唆する発言が続いて出されれば、上値が重くなりそうだ。本日はクーレ理事発言が予定されている。

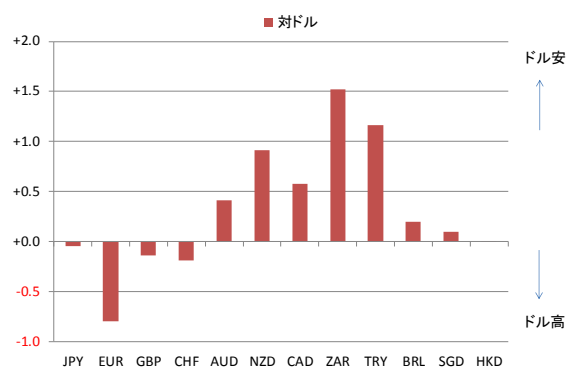
豪ドル/米ドルも米ドル関連材料の影響を強く受ける展開が続きそうだが、銅などコモディティ価格の反発基調が続いている中で、どちらかという底堅い展開が続きそうだ。

主要通貨の対円相場(前日比%)



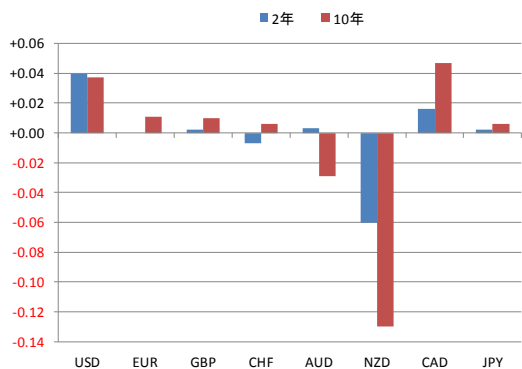
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



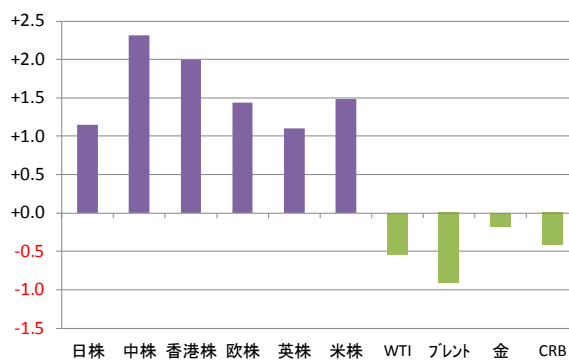
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

**ご留意いただきたい事項**

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会